

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態			
医療心理学	必修	1	4	前		日本語		オムニバ ス			
【担当教員】 医療倫理学											
【科目名の英文】 Medical Psychology											
【授業の概要・到達目標】 疾病・症状を有することで、患者に起こる心理的变化の特徴を理解したい。さらに患者の全人的理解と良好な医師患者関係構築のために重要な事項の修得を図る。また、これらを踏まえて医療コミュニケーションの機能と意義を理解し、メディカルインタビュー実習の準備を行いたい。											
具 体 的 な 到 達 目 標						医学科ディプロマポリシーとの対応					
						1	2	3	4	5	6
1. 医療コミュニケーションの基礎と共感の重要性について説明できる。						○	○		○		
2. 患者で起こる一般的な心理的变化の特徴を理解し、説明できる。							○		○		
3. 生活者としての患者を理解し、疾病・症状を有することを全人的に捉えることの重要性を説明できる。							○	○	○		○
4.											
各 DP への関連度（計 10）						1	6	1	1		1
【授業の内容】											
回数	授業項目	授業内容				担当講座・教員		方法			
1	医療面接①	様々なコミュニケーション、医療面接（メディカルインタビュー）の基礎				医療倫理学・今井		講義			
2	医療面接②	共感について				臨床薬理学・関口		講義 SGD			
3	患者心理の理解（特別講演）	年齢階層による心理特性の特徴、様々な疾患を有することによる心理の理解				医療倫理学・外部講師		講義			
4	患者医療者関係	患者医療者関係のあり方、悪い知らせの伝え方				医療倫理学・非常勤講師（有田悦子）		講義 SGD			
【アクティブラーニングの内容】 課題を提示し、少人数グループでのディスカッション(SGD)を行う。						【その他の工夫】					
【時間外学修の内容と時間の目安】											
準備学修	教養科目の心理行動科学の学習内容を復習した上で授業に臨む（8h）。										
事後学修	各講義内容について、振り返りを行う（15h）。										
想定時間合計	23										
【教科書】 資料を配布する。											
【参考書】 授業で資料を提示する。											

【成績評価方法及び評価の割合】 筆記試験 90%、受講状況 10%			
【注意事項】 授業回数が少ないので出席に留意すること。欠席の場合は理由を明確に記し欠席届を提出すること。			
【備 考】			
リンク			
	URL		
教員の実務経験の有無	有		
教員の実務経験	附属病院の医師、臨床心理士		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無		
教員以外の指導に関わる実務経験者			
実務経験をいかした教育内容	診療場面で起こり得る課題を教育プログラムに取り入れる。		
授業形態	対面、一部リモートによる講義・SGD を実施する可能性がある		